

学年	中学1年	教科	音楽	科目	音楽 I	単位数	2
教科書名	中学生の音楽 I (教育芸術社) 中学生の器楽 (教育芸術社)			副教材名	音楽のキャンパス① (教育芸術社)		
コース・クラス	中高一貫						

## I. 目標

- ・基礎的な音楽表現の技能を身に付け、創造的に表現する能力を育てる。
- ・多様な音楽に興味、関心を持ち、幅広く鑑賞する能力を育てる。
- ・アルトリコーダーの基礎的な知識及び技術を身に付ける。

## II. 授業のねらい

- ・歌唱・発声を通して声の出る仕組みを知る。
- ・合唱を通して、声を合わせて歌う喜びを知る。
- ・器楽・アルトリコーダーを通じて楽器の基礎を身に付ける。
- ・鑑賞・器楽曲や外国語の歌曲に触れ、作品の特徴や表現の多様さを感じる。

## III. 授業の進め方

- (1) 正しい発声練習をし、声を鍛えながら、教科書やプリントの曲を歌唱する。
- (2) 演奏と同時にワークやプリント、映像などを使いながら作品の理解を深める。
- (3) さまざまな音楽を鑑賞し、それぞれの曲がもつ表現を感じ取り、ワークにまとめる。

## IV. 学習上の留意点

- (1) 発声練習でしっかりと声を出し、正しい姿勢で歌う。
- (2) 教科書、ノート、楽器を忘れず用意し、授業に取り組む。
- (3) 提出物の期限は必ず守る。

## V. 定期試験

- 1学期 中間試験 : 定期試験時には行わず授業内で歌唱試験を行う
- 1学期 期末試験 : 定期試験時には行わず授業内でリコーダー試験を行う
- 2学期 中間試験 : 定期試験時には行わず授業内で歌唱試験を行う
- 2学期 期末試験 : 定期試験時には行わず授業内でリコーダー試験を行う
- 3学期 学年末 : 定期試験時には行わず授業内で歌唱試験を行う

※各学期に単元別の小テストを行う場合がある

## VI. 評価の方法

実技では歌唱テストおよび器楽テストなどを行い、鑑賞ではノートの記載を適切に行なっているかを確認し、評価をする。授業態度（忘れ物を含む）平常点として、忘れ物、授業態度が適切でない者（遅刻・私語・授業に不必要な持参物等）は減点する。

VII. 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	年間通して、発声は必ず行う。 ・歌唱「校歌」 歌唱テスト	実技テスト 小テスト 提出物 授業態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音程を正しく、正確に歌う。</li> <li>・歌詞を覚える。</li> <li>・音楽の基礎知識を確認する。</li> <li>・演奏される楽器などの構成を知る。作品を知り、作曲家への理解を深める。</li> <li>・ハーモニーの変化を感じながら歌う。アルトリコーダーについて知る。</li> <li>・演奏を通し楽器の構造を知る。</li> </ul>
	5	・音符、休符、記号の確認 ・鑑賞「春（ヴィヴァルディ）」 ・歌唱「主人は冷たい土の中に」 「エーデルワイス」		
	6	・歌唱「主は冷たい土の中に」 歌唱テスト		
	7	・アルトリコーダー 構造、指番、チューニング 姿勢と構え方、タンギング ・演奏「喜びの歌」「かっこう」 ・アルトリコーダーテスト		
二学期	9	・歌唱「浜辺の歌」 歌唱テスト ・合唱練習 (曲目は年度によって選曲する)	実技テスト 小テスト 提出物 授業態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フレーズの特徴を生かし、表現を工夫して歌う。</li> <li>・歌詞を理解し、曲への理解を深める。</li> <li>・詩の内容と曲想の変化との関わりを感じ取る。</li> <li>・作曲者・作品への理解を深める。鑑賞の魔王は、日本語とドイツ語の歌詞の味わいを感じ取る。</li> <li>・リコーダーはサミングを習得する。</li> <li>・合奏においては、自分の技術だけでなく相手もきちんと聴いて合わせることを学ぶ。</li> </ul>
	10	・鑑賞「魔王（シューベルト）」 原語（ドイツ語）と日本語		
	11	・アルトリコーダー 右手を加えた運指、サミング		
	12	「そっとやさしく」「カノン」 ・クラッピングカルテット①		
三学期	1	・歌唱「赤とんぼ」 歌唱テスト ・鑑賞「箏曲 六段の調」 ・アルトリコーダー	実技テスト 小テスト 提出物 授業態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詩や曲の雰囲気にあった声で言葉の抑揚をつけて歌う。</li> <li>・作詞・作曲者の代表作にも触れながら、自分達の歌唱と日本の伝統文化に親しみを持つ。</li> <li>・曲想を感じ取って、速度や強弱の変化を生かした表現を工夫する。</li> <li>・合唱は、他者との協調性を学び、合わせることの大切さも感じながら演奏する。</li> </ul>
	2	「オーラリー」 ・合唱練習		
	3	・学年末まとめ、卒業式歌の練習		

※ シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により変更することもあります。